令和元年度河川水質調査結果報告

村では環境保全の状況確認のため、9月と1月の2回、谷太郎川、小鮎川、および金翅川の3河川（5ヶ所）の生活環境の保全に関する基本的な測定項目の調査を実施しています。

調査の結果、PH（水素イオン濃度）、BOD（生物化学的酸素要求量）、SS（浮遊物質量）、DO（溶存酸素量）の項目全てが環境基準を満たしています。

しかし、大腸菌群数は9月の原下地区と御門橋が、1月は御門橋が高くなっています。原因は、気温や河川の水量、鳥獣のふん尿、生活排水の流入などさまざまな影響が考えられます。小鮎川や金翅川に入ったときは、手足や体を、石けんを使って十分に洗いましょう。

採水場所 ＼ 調査項目		実施日	PH	BOD 単位:mg/ℓ	SS 単位:mg/ℓ	DO 単位:mg/ℓ	大腸菌群数 単位:MPN/100mℓ
谷太郎川	水の尻沢橋	令和元年9月12日	7.6	0.3	<1	9.4	230
		令和2年1月22日	7.6	0.4	<1	12.1	33
小鮎川	原下地区	令和元年9月12日	7.8	0.5	<1	8.9	**1,100**
		令和2年1月22日	7.7	0.6	<1	12.4	130
	片原橋	令和元年9月12日	7.7	0.4	<1	9.2	330
		令和2年1月22日	7.8	0.9	1	11.0	330
	寺鐘橋	令和元年9月12日	7.8	0.3	<1	9.7	790
		令和2年1月22日	7.8	0.8	3	12.4	140
金翅川	御門橋	令和元年9月12日	7.9	0.7	<1	9.7	**4,900**
		令和2年1月22日	8.0	0.6	<1	10.5	**1,100**
基準値（目標値）			6.5～8.5	2mg/ℓ以下	25mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ以上	1,000MPN/100mℓ以下

●記号「<」は、定量下限値未満であることをあらわします。
●小鮎川は水域類型A、谷太郎川、金翅川は環境基準が定められていないため、2河川の流入先である小鮎川の水域類型Aを目標値としています。
●基準値を超える数値は太字で表記しています。

調査項目の解説		
	PH（水素イオン濃度）	PH7が中性で、それより数値が大きいとアルカリ性、小さいと酸性。
	BOD（生物化学的酸素要求量）	水のきれいさを示す代表的数値。数値が低いほど良い。
	SS（浮遊物質量）	数値が低いほど濁りが少なく、透明度が高い。
	DO（溶存酸素量）	数値が高いほど酸素量が多く、汚染源となる有機物が少ないため、数値が高いほど良い。
	大腸菌群数	し尿や土壌、植物などに由来する細菌の数を示す数値。数値が低いほど良い。

税務住民課環境係 ☎(288)3849